

千葉県立成田国際高等学校

成田発！ 2020年に向けてアジアとの共生を担うグローバル・リーダーの育成

【構想の概要】

アジア諸国・地域の人々と互いを尊重しつつ、平和的・健康的な生活を営みながら、協働してアジア全体、ひいては世界の持続的発展に貢献できるグローバル・リーダーの育成することを目的とし、以下の7つの資質・能力を育成する。

- ①課題発見・問題解決能力 ②論理的思考力 ③コラボレーション能力 ④コミュニケーション能力
- ⑤具体的な解決を図る企画力 ⑥異文化の対する受容性 ⑦日本文化理解と発信力



●教育課程表(普通科・国際科の全生徒が「GS 課題研究基礎(1年次)」 「GS 課題研究発展(2年次)」を履修する。

【国際科の教育課程表】

第1年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32																											
	国語総合		世界史B		数学Ⅰ		数学A		化学基礎		生物基礎		体育		保健		芸術Ⅰ		総合英語		ディベート・イングリッシュ		GS 課題研究基礎		は		は		は		L		H																										
第2年次	現代文B		古典基礎		4単位選択(4)				理科基礎(2)		体育		保健		家庭基礎		情報の科学		総合英語		イングリッシュ・コンポジション		1群選択(2)		2群選択(2)		は		は		は		L		H																								
					日本史B		物理基礎		数学Ⅱ		地学基礎												数学B		地理A		GS 課題研究発展		は		は		は		L		H																						
<p>※2, 3年次に「日本史B」、「地理A」、「地理B」のうち少なくとも1科目を必ず履修すること。ただし、「地理A」と「地理B」の両方を履修することはできない。</p> <p>※同じ科目は一度しか選択できない。(GS時事英語、ディベート、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ、韓国語Ⅰ)</p> <p>※「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「書道Ⅱ」「日本語Ⅱ」を選択するには、1年次に「前科目Ⅰ」を選択していることが必要。</p> <p>※「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「韓国語Ⅰ」はいずれかしか選択できない。</p> <p>※3年次に「物理」、「地学」を選択する場合は、2年次にそれぞれ「物理基礎」、「地学基礎」を履修しなければならない。</p> <p>※ 第1年次から第3年次までに専門教科の専門科目を25単位以上履修しなければならない。</p> <p>専門科目のうち、全員共通で履修する科目を全て履修したとすると、2・3年次に選択科目の中の専門科目(1群、2群、4群、5群選択科目内の網掛けした科目)を少なくとも1科目履修しなければならない(1年次に日本語Ⅰを履修した者は不要)。</p>																																																											
第3年次	現代文B		古典B		倫理		政治・経済		体育		総合英語		異文化理解		3群選択(4)		4群選択(2)		5群選択(2)		は		は		は		は		は		は		L		H																								
															地理B		探究政治・経済		国語表現				探究数学ⅠA		探究政治・経済		探究世界史		探究数学ⅠA		探究政治・経済		ライフスポーツ		音楽Ⅲ		音楽Ⅲ		美術Ⅲ		書道Ⅲ		ディスカッション		ディスカッション		GS 課題研究活用		フランス語Ⅱ		中国語Ⅱ		韓国語Ⅱ		GS 日本文化		GS 連続		日本語Ⅲ

ロールプレイ教材の開発（1年次）

「ペナン島とグローバルゼーション～進むべき未来を考える」（6月に各クラスにて実施）。マレーシアのペナン島の未来について、工業化、リゾート開発、ジョージタウンの世界遺産認定、伝統的な漁村等の側面から考えた。グループが6つの立場（①大資本、②飲食チェーン店、③ペナン・ヘリテージ・トラスト [NGO]、④零細漁民、⑤地域住民⑥政策委員会）になりきり、利害関係について議論を行うものである。社会問題について多角的に考え、それぞれの立場から相手に分かりやすく伝えることを目的とした。事前ガイダンスの際には、教員によるデモンストレーションも行った。



教員デモンストレーション

教室でのロールプレイの様子

国内フィールドワーク（1年次）

生徒全員が参加する国内フィールドワークは、多文化共生、観光、教育、環境の各テーマに基づく8コースを設定している（9月に実施）。国内フィールドワークの事前に研究グループの編成を行い、事後のミニポスターによる報告を経て、10月より本格的な研究活動が始動する。

	目的・方面
①	行政機関とインターナショナルスクール（新宿・幕張）
②	NPOと大使館施設を訪問する（四ッ谷・千葉）
③	在日ムスリムコミュニティを訪問する（代々木上原・柏）
④	観光客に街頭インタビュー（浅草）
⑤	農園リゾートで観光の新形態を探る（香取）
⑥	地域活性化の方法、環境と観光の両立を探る（鴨川）
⑦	足尾銅山で公害の歴史や環境NPOの活動を学ぶ（足尾）
⑧	東京湾で生物多様性・環境問題を考える（船橋・青海）



マレーシア海外フィールドワーク（2年次）

○滞在地 クアラルンプール、ペナン州
○主な訪問先（9泊10日）

クアラルンプール および近郊	地方部公立学校（SMK Sungai Pelek）	ブルーモスク
	都市部私立学校（Seri Cahaya School）	商業施設（AEON Mall Shah Alam）
	市内フィールドワーク（B&Sプログラム）	
ペナン	自然環境漁業調査（鳥類保護区）	民泊体験（スンガイ・アチェ村）
	沿岸漁民福利協会（PIFWA）	植林センター
	観光開発調査（ペナン・ジョージタウン市内フィールドワーク）	
	観光地調査（ガーニープラザ）	
	漁村調査（スンガイ・バトゥック）	



開発公社にて

ペナン消費者協会にインタビュー

校内発表会（主なもの）

①中間発表会 [1年次2月]、②ポスターセッション [2年次9月]、③校内発表会 [2年次12月]、④SGH研究発表大会 [1月]（代表グループのみ）。

生徒の自己評価

2年次最終論文の提出後に、2年間の課題研究の成果について、ルーブリック自己評価票により4段階で評価をさせた。集計結果は次の通りである（4が高評価）。

資質・能力	観点	4	3	2	1	4&3	2&1	平均値
課題発見能力	深い問題意識	18%	57%	23%	2%	75%	25%	2.92
	明確な課題設定	21%	50%	28%	2%	70%	30%	2.89
論理的思考力	十分な調査	8%	42%	48%	2%	50%	50%	2.56
	多角的な分析・統合	10%	59%	30%	2%	69%	31%	2.77
コラボレーション能力	互いを高め合う協働	25%	48%	22%	4%	73%	27%	2.94
コミュニケーション能力	伝わりやすい発表	15%	57%	27%	1%	72%	28%	2.86
	議論を深める質疑応答	7%	43%	42%	8%	50%	50%	2.49
企画力（問題解決）	有効な提案	8%	57%	33%	2%	64%	36%	2.70
異文化受容性	共生への視点	17%	66%	15%	2%	83%	17%	2.98

また、下図は、集計結果から各項目間の相関係数を求め、値の高いものを図示したものである。

